



スクールカウンセラー便り



新型コロナウイルス感染症の収束が見えずにストレスを感じる日々が続きます。皆様の心と身体の健康が守られることを願っています。

～カウンセリングって、どんなことを話したらいいの？～

友人関係、部活、勉強、親や先生との関係など何でも OK。「こんなこと恥ずかしい」、「たいしたことではないけど…」など気にしなくても大丈夫です。秘密は守られますから安心してください。

保護者の皆様も、お子様のことなら何でもご相談ください。高校生は自立に向けて難しい時期です。しかし、周りの大人の対応次第で子どもは気持ちが楽になり、良い結果につながる可能性もあります。

申し込み方法

担任の先生、養護教諭の河合先生、または保健部の古川先生を通じて申し込んでください。

自己肯定感を高める言葉かけ・・・その②



前回に引き続き、思春期の子どもとの関わり方についてです。今回は“失敗を受け入れる”ことの大切さについて考えてみます。

子どもが小さかった頃は大人が教え導いてきたものが、この時期になると大人のできることはだんだん限られてくると感じます。勉強を教えることも難しいですし、アドバイスが届かないことも増えます。言うことを聞かずに子どもが失敗すると「だから、言ったじゃない。言うことを聞かないから」と怒ってしまいがちです。しかし、こんなふうに言われた子どもはどのように感じるのでしょうか。「助けが無いと自分は失敗する」と感じて自信をなくし、自立がはばまれてしまうかもしれません。

子どもの失敗を見るのは本当に辛いことですが、この時期の子どもはいろいろな失敗をしながら、自ら学び成長していくものという理解も大切なのだと思います。そして、**失敗のときこそ、子どもへの愛を伝える大きなチャンス**なのです。失敗を責めずに応援してくれる大人がいたら、子どもはどれだけ勇気づけられることでしょうか。そして、そんな大人に感謝するのではないのでしょうか。失敗の中にあるプラスの要因に目を向けていくように励ますことも良いと思います。そして「大丈夫、きつとうまくいく」と子どもを信じてあげることが、この時期子どもを支えていく大人ができる数少ないことのひとつなのかもしれません。